

平成29年度

公益財団法人名古屋みなと振興財団 事業報告書

I 総括事項

公益財団法人 5 年目となった平成 29 年度は、名古屋港水族館で飼育展示しているバンドウイルカ 2 頭が自然繁殖により出産し、うち 1 頭が成育している。さらに人工授精にも取り組み、バンドウイルカ 1 頭が妊娠した。

また、シャチのメインプールでの展示やしおかぜ広場でのゴマフアザラシとケープペンギンの展示など、新たな魅力作りに取り組んだ。

また引き続き、海事思想の啓蒙と海洋文化の普及及び海洋生物等の展示並びに調査研究に努め、併せて観光事業の振興を図り、名古屋港の発展に寄与することを目的として次の事業を行った。

1 公益目的事業

(1) 海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 体験プログラムを通じた海洋文化の普及（資料 1）

小中学生（大人含む）若しくは小学生とその家族（保護者）を対象とした水族館内でのスクール、講演会など主に水生生物に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 館内スクールとして「水族館スクール」を開催した。昨年度に引き続き「君もドリトル先生になれるか！」「もっと知りたい！ダーウィン教室」の 2 種を実施した。前者は、比較的手軽に参加していただけるスクールとしてバックヤード見学を中心とし、小学生とその家族を対象として開催した。特に応募の多かった講座については回数を追加して実施した。後者は、より生き物好きな人に満足していただけるよう、少人数で作業や実験・観察を行う充実した内容のスクールとした。

イ 名古屋市及び全国 17 都道府県で採用している小学 4 年生の国語の教科書（ひろがる言葉 小学国語 4 下：教育出版株式会社）に、平成 28 年度から当館のウミガメに関する取り組み（飼育、放流調査研究等）が紹介された。内容を補完するために、名古屋港水族館ホームページにウミガメ特設コーナーを設置、市内教員向け著者講演（バックヤード見学会）、市内児童向けウミガメレクチャーの 3 点を実施した。

※実績

- ・市内教員向け著者講演 14 校 23 名参加（8/18・21 の 2 回実施）
- ・市内児童向けウミガメレクチャー 14 校 856 名参加（11/21～12/13 に計 11 回実施）

ウ 水族館に宿泊して水族館の生物の観察などを行う「お泊り水族館」を小学生の家族を対象に実施した。また、閉館後の水族館の生き物たちの「夜の生態」を見学する「ナイトウォッチング」を開催した。

エ 7 月 29 日から 8 月 13 日の期間、名古屋駅前の商業施設ミッドランドスクエアにおいて今年度で 10 回目となる「名古屋港水族館 AQUA LIVE！ in ミッドランドスクエア 2017」を開催し、名古屋港水族館開館 25 周年を

テーマとし、25周年記念として開催した特別展「くらげの刻（とき）～漂い生きる不思議な生き物～」を紹介した。タコクラゲ、熱帯性海水魚、ウミガメの子ガメを始めとする生物展示のほか、シャチの大型パネルや映像を交えてシャチのリンの成長の様子を紹介した。別のモニターを使って名古屋港水族館のイメージ映像を上映しながら、パネルではサマーナイトアクアリウムの紹介や水族館の25周年を振り返るコーナーも設けた。

オ 特別展は、昨年度より継続して「Zoo Aquarium（ズーアクアリウム）～水族館なのに動物園！？～」を4月上旬まで実施し、ゴールデンウィークより10月初旬までは開館25周年記念特別展「くらげの刻（とき）～漂い生きる不思議な生き物～」を、また、10月下旬から年度末までは日本に生息する淡水、陸生のカメの仲間について在来種を脅かす帰化種に対する啓蒙を含めて紹介する「カメ、知ってる？～意外に知らない日本のカメ事情～」を開催した。加えて“七夕”や“正月・干支”など時節ごとの展示も行った。

② 機関紙等による情報提供（資料2）

ア 水族館機関紙「さかなかな」を年4回発行した。また、学習教材「かんさつノート」は、生物状況に応じて改訂し、来館した小中学生の希望者に配布した。特に教育旅行で訪れた小中学校の団体には企業協賛で増刷した簡易版を提供し、教育普及に活用した。

イ 生物情報紙「新着！海の生き物レター」は、8回発行し、来館者に対してしおかぜ広場の新施設にやってきたケープペンギン、今年もアカウミガメの赤ちゃんが順調に誕生したことなどタイムリーな話題を提供した。

③ 体験プログラムを通じた海事思想の普及（資料3）

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 「帆船模型展」、「工作教室（ペーパークラフト教室、立体カード工作教室、ボトルシップ製作教室）」、「南極教室」、「南極観測船ふじでの星空見学会」、「夏休み工作教室（立体ノート工作教室）」等の事業を実施した。

イ 親しまれる港づくりの一環として、元旦にポートビル展望室から初日の出を眺めるイベント「港から始まる2018」を実施し、164名が参加した。

④ 学生の職場訪問及び教員研修等の受け入れ（資料1）

教員、学生を対象とした教員研修や職場訪問・体験指導などを受け入れ水族館及び海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体へのレクチャーを実施することにより、参加者を通じて一般市民へ海洋文化及び海事思想の普及を図った。

⑤ ボランティアの育成、活用（資料4）

ボランティアを育成、活用することにより、当該ボランティアスタッフ及び来館者へ海洋文化及び海事思想の普及を図った。

ア 水族館のボランティア活動は、本年度登録者数 194 人で実施した。主な活動は、来館者への展示生物の解説や水族館スクールの補助に加え、ボランティアが計画実施する朗読会や工作会の開催等で、(年間活動延べ人数は 2,841 人) 総活動延べ時間は 9,155 時間 15 分であった。

イ 南極観測船ふじのボランティア活動は、解説ボランティアとメンテナンスボランティアの 2 種類を実施した。解説ボランティア (10 名) は、館内施設の説明等を実施し、来館者から好評を得た。総活動延べ時間 541 時間 30 分であった。また、メンテナンスボランティアは、4 名で船体及び周辺施設の塗装・修理等を実施し、施設の維持に大きく貢献し、総活動延べ時間は 66 時間であった。名古屋海洋博物館でも博物館の更なる魅力向上のため、ボランティア (2 名) による解説活動を行っており、総活動延べ時間は 165 時間であった。

⑥ 研究会・ゼミナール等の開催 (資料 3 及び 5)

ア 名古屋港水族館は、京都大学霊長類研究所及び三重大学大学院生物資源学研究科のそれぞれと共同開催で、種の保全に向けて水族館が研究機関と共同で行っている研究活動を紹介するために、学術交流協定共同研究講演会「イルカは世界をどう見ているか? ~陸海空の心の世界~」(講師: 京都大学霊長類研究所 友永雅己教授) (参加者 64 名) と「ベルーガやイルカの声から私たちを知る~イルカ・クジラのコミュニケーション~」(講師: 三重大学大学院生物資源学研究科 附属鯨類研究センター 森坂匡通准教授) (参加者 67 名) を実施した。

イ 北館「進化の海」コーナーのリニューアルを記念して講演会「イルカは昔、陸を歩いていた~化石が明かす五千万年の進化史~」(講師: 福井県立恐竜博物館 主任研究員 一島啓人博士) (参加者 52 名) を実施した。

ウ 水口博也写真展「World Orca」の付帯イベントとして、水口博也講演会「世界のシャチに会いに行く」(講師: 写真家 水口博也) (参加者 54 名) を実施した。

エ 日本カメ自然誌研究会と共催で、第 19 回日本カメ会議を 60 名の参加で実施した。

オ 主に名古屋港を職場とする会社の職員等を始めとした市民を対象に「名古屋港港湾ゼミナール」を開催し、港湾情勢の他、経済・社会の変化など幅広い見識を深めた。

⑦ 指定管理施設 (水族館) を活用した海洋生物の展示等 (資料 5)

海洋生物の展示を通して次のとおり海洋文化にふれあう場を提供した。展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者や解説ボランティア等による解説等を積極的に行い、来館者への海洋文化普及を促した。

ア シャチ「ステラ」「リン」「アース」の 3 頭の展示を継続し、併せて公開トレーニングを実施した。「アース」の所有権移転後はメインプールで実施した。

複数でのメインプール展示は開館来初めての取り組みでもあり、「リン」と「アース」が広いプールを活発に泳ぎ回りジャンプする姿や観覧席の直ぐ目の前に上陸する姿は人気を集め、これまで以上に多くの来館者に好評を博した。なお、「アース」はオスであるため、メスである「ステラ」「リン」との分離訓練を昨年同様不定期に実施した。平成 29 年 11 月 13 日に「リン」は 5 歳を迎え、体長が 4.3m、体重が 1.3 トンを超えるなど順調に成長している。平成 29 年 10 月 13 日に 9 歳となった「アース」も体長が 5.0m、体重が 1.9 トンを超え、背鰭・胸鰭・尾鰭の各鰭が大きくなりオスの二次性徴の特徴が見え始めている。

イ バンドウイルカの繁殖について、3 歳になったオスの「カイ」は母親の「ゼロ」と平成 30 年 1 月よりメインプールに移動し、パフォーマンスに参加するための練習を行うようになった。また、今年度は「ビビ」「ウィニー」2 頭の出産があり、このうち「ウィニー」の産仔（平成 29 年 9 月 23 日誕生）は腰部に湾曲的症狀があるものの順調に生育し現在展示中である。バンドウイルカの繁殖個体は 4 頭となった。

ウ 平成 21 年に誕生したカマイルカ「アイ」は 8 歳を迎え、イルカパフォーマンスに継続的に参加している。ジャンプで 3 回ひねりを入れる種目「垂直バレルロール」をイルカパフォーマンスで公開し、引き続き好評を得ている。

エ しおかぜ広場に「ごまちゃんデッキ」が新設され、7 月 21 日からオープンした。そこでは当館で飼育していたゴマフアザラシ 2 頭に加え、新たに東京都恩賜上野動物園よりブリーディングローンで 21 羽のケープペンギンを借り受け飼育展示した。「フィーディングタイム」を実施し、好評を得た。また、平成 30 年 3 月下旬からは「ペンギンよちよちウォーク」を開催し、しおかぜ広場に多くの来館者を集めた。

オ 平成 19 年 7 月 25 日に誕生したベルーガ「ナナ」、平成 24 年 8 月 2 日誕生した「ミライ」は、共に順調に成長し、それぞれ 7 月と 8 月に 10 歳と 5 歳を迎えた。このほか、ベルーガの生態を更に分かりやすく紹介する目的で実施しているイベント「ベルーガの不思議な魚の食べ方」を本年度も継続実施した。また、平成 30 年度に向けて、2 階及び 3 階の観覧側に高輝度プロジェクターを設置し、天井や壁に自然のベルーガや北極環境の映像、公開トレーニングの様子をリアルタイムで投影し展示効果を高め、来館者サービスの向上に向けて準備を進めた。

カ 4 月 8 日にゴマフアザラシ「ナノハ」が第一子を出産し、当館では初の出産となった。残念ながら生後 8 日目で死亡した。

キ 黒潮大水槽においては、約 3 万 5 千尾のマイワシが群れて摂餌する状況を「マイワシのトルネード」と題して、本年度も継続実施した。加えて白色のみだった水中照明による演出を多色化した。

ク 水族館と学術交流協定を締結している 5 つの研究機関との協定内容や研究実績について、名古屋港水族館ホームページへの掲載を開始した。

ケ 夏休み、春休みなどの集客として、東海地区及び関西・北陸地区や長野県へ

のテレビコマーシャルの放映及び雑誌や新聞への広告、ラジオ番組への出稿などに随時取り組んだ。また、新たな手法として名古屋駅の大型ビジョンである「名古屋エクスプレスビジョン」に映像を上映した。加えて、広告チラシを作成し、一般市民へ提供するとともに県下の小学校を通じて児童に配布した。

コ マスメディアに対して、話題ある情報提供を行うために、積極的にニュースリリースを発行したり、取材対応を行ったりした。主なものとしては、開館 25 周年記念セレモニーに合わせてベルーガとバンドウイルカの命名認定式を開催したこと、平成 4 年の開館以来総入館者数が 4,500 万人を達成すること、しおかぜ広場に新施設、でら近っ！「ごまちゃんデッキ」がオープンすること、シャチの「リン」が 5 歳、ベルーガの「ミライ」が 5 歳、「ナナ」が 10 歳の誕生日を迎えたこと、9 月にはバンドウイルカの赤ちゃんが誕生したこと、当館初となるバンドウイルカの人工授精による妊娠に成功したこと、夏にケープペンギンが搬入され、「ペンギンよちよちウォーク」を実施すること、平成 29 年度の入館者が早々と 2 月に 200 万人を達成したことなどの話題を提供した。

南館を中心とした企画展示は、徳川美術館とのコラボ企画「鯨の尾ってどんな尾？～刀の鯨尾とナマズの尾～」を始め、七夕、ハロウィン、クリスマス、干支などに因んだ多くの生物展示や、水口博也氏の写真展を企画し、多くのマスメディアに取り上げられた。

財団ホームページでは、トピックスの頻繁な更新を始め、飼育員が書き上げる「スタッフブログ」や、広報スタッフによるフェイスブックへの投稿など、多くのお客様に興味を持っていただけるように最新情報の更新に力を入れた。その結果、平成 29 年度のホームページアクセス件数は 3,024 万件（前年度 2,488 万件）、ニュースリリースは 84 件（前年度 97 件）、取材対応は 268 件（前年度 299 件）に上った。また、フェイスブックを見た多くの方に関係する当館のホームページを見てもらえるよう、極力タグをつけるようにした。

サ 観光キャンペーンの一環として愛知県はもとより、静岡県、長野県、福井県、兵庫県で一日水族館を実施し、観光推進 PR 及び誘客に努めた。また、観光関係機関等が主催する旅まつり名古屋 2018 に積極的に出展した。

シ ゴールデンウィーク、夏期間、年末・年始、春休みは、休館日に臨時営業し、集客に努めた。また、ゴールデンウィーク、夏休みには、夜間営業を実施し「夜間割引」を行った。その結果、平成 29 年度の入館者数は 2,221,822 人（前年比 112.9%）となった。また、ガーデンふ頭地区駐車場における乗用車の利用台数は 301,486 台で、前年度比 106.1%となった。

ス 名古屋市主催の音楽とアートのイベント「アッセンブリッジ・ナゴヤ」に協力、スタジアムや水中観覧席でのコンサートが開催された。

⑧ 指定管理施設（海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等（資料 3）

海洋博物館及び南極観測船ふじにおいて所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想普

及を促した。

平成 29 年度の企画展として、名古屋港開港 110 周年記念企画展「昭和時代の名古屋港」を平成 29 年 7 月 15 日～9 月 3 日に開催した。昭和以前の名古屋港（明治大正期）、戦前の発展の時代（昭和元年～10 年）、戦争と震災（昭和 11 年～20 年）、戦後復興（昭和 21 年～30 年）、高度経済成長（昭和 31 年～40 年）、輸送革新（昭和 41 年～50 年）、親しまれる港（昭和 51 年～64 年）、平成時代の名古屋港（平成期）の 8 つの時代に分け、それぞれの年代を写真入りのパネルで紹介し、その当時を表す資料として、ネコ車、陶磁器、パンフレット、船模型、映像 DVD などの展示を行い、期間中 35,655 人の人出で賑わった。

このほか、ポートビル 2 階においては、回廊ギャラリーを一般市民に展示会場として開放し、無料休憩施設であるポートハウスにおいては、しおかぜコンサートを実施するとともに、名古屋市主催の音楽とアートのイベント「アッセンブリッジ・ナゴヤ」に協力、ポートビル、ポートハウスでのコンサートなどが開催された。その結果、ポートビル 2 階回廊ギャラリーは 14 回、ポートハウス休憩所は 43 回の利用があった。

⑨ 海洋生物等の調査研究（資料 5）

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施した。

ア 愛知県立三谷水産高校実習船「愛知丸」の航海に同乗し、高知沖でアカウミガメ（0 歳 5 個体、2 歳 1 個体）に標識を装着し放流調査を実施した。

イ 今年度の主な繁殖生物は、バンドウイルカ 1 個体、アカウミガメ 36 個体、ニシキマゲクビガメ 4 個体、ブタバナガメ 27 個体、ナンキョクオキアミ 8,442 個体、ペンギン類 12 個体であった。バンドウイルカの繁殖研究を推進し、人工授精で 1 頭妊娠した。平成 30 年 5 月頃に出産予定である。

ウ 野生動物の教育的展示と種の保存事業を促進することを目的に、学術交流協定書を締結している京都大学野生動物研究センター、京都大学霊長類研究所、岐阜大学応用生物科学部、三重大学大学院生物資源学研究科と共同研究を実施した。また、京都産業大学生命科学研究科、日本大学生物資源科学部、近畿大学農学部、常盤大学総合政策学部、信州大学繊維学部とも同様に共同研究を実施した。

エ 平成 23 年 8 月に開始した名古屋港内のスナメリの出現頻度調査は、一時中断していたが、京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター及び東海大学海洋学部環境社会学科の協力の元、平成 28 年度の予備実験を経て、音響タグを用いた「名古屋港最奥部におけるスナメリの分布密度の季節変化の調査」を実施した。

オ 学術交流協定を締結している岐阜大学応用生物科学部と三重大学大学院生物資源学研究科から、学生の教育（研修・博物館実習）を目的とした実習生を

受け入れた。

カ 北海道大学獣医学部、沖縄工業高等専門学校から、学生の研修を目的として実習生を受け入れた。

キ 平成 29 年度から新たに開催された日本鯨類研究協議会の第 1 回水族館研究会において 2 題の研究発表を行った。

ク 平成 29 年 5 月 17 日に韓国で 4 つの水族館を経営するハンファホテル&リゾートと相互の水族館の発展を目的として交流の覚書を締結した。

また、年間の飼育・繁殖研究などの進捗状況を報告することで、相互理解を深め交流を推進することを目的に「2017 年ハンファホテル&リゾート・名古屋みなと振興財団 水族館情報交流会」(1/24・25)を実施した。

ケ 徳川美術館が所蔵している絵巻「築地名苑真景・草木虫魚写生図巻」に掲載されている生物図の生物名の同定調査を実施した。

(2) ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業を始めとした観光振興事業（資料 6-1 及び資料 6-2）

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等が一体的に協力して相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光情報を広く提供するため、ガーデンふ頭地区観光施設で組織された「名古屋港観光施設協議会」の事務局を務め、名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進 PR、誘致営業・宣伝事業等を行った。また、本財団単独事業としても各種 PR を行った。従来から継続して行っている。

県内はもとより中部・北陸・関西地区を中心とした県外地域へも営業活動を実施した。旅行社等 109 社、幼稚園・保育園 70 園、小中学校や高校 261 校に訪問して、水族館を含む名古屋港エリアの見どころなどを PR して学習旅行などの誘致を図った。訪問した旅行社や学校などには水族館をはじめとしたガーデンふ頭施設の資料、水族館カレンダー及び水族館ポスターを贈呈した。なお、訪問がカレンダーの製作より早かった旅行社には郵送する形で贈呈した。

学習旅行として来館した団体や、事前の下見に来館した教員・旅行社の担当者の方に対して、ポストカードやペンギン羽根カード、団体向けかんさつノートなどを進呈して、今後の学校団体誘致及び情報の収集に努めた。

また、名古屋をはじめとする近隣地域のホテル・旅館等へ訪問し、案内パンフレット、水族館カレンダー等を配布し、希望のあったホテルのコンシェルジュの方々に水族館を案内するなど、宿泊客へのガーデンふ頭地区の魅力を紹介してもらおうよう、PR を積極的に行い誘客に努めた。

② 情報誌の発行

名古屋港の観光施設の情報を掲載した無料情報誌（「名古屋港水族館とガーデンふ頭のにぎやか情報誌」、「ゴーゴー名古屋港（名古屋港ガーデンふ頭ガイドマップ）」等）を発行し、県内外の各所に配布することにより、名古屋港の観光情報を発信し、来訪者の増加を図った。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関係団体に参加し、同団体が主催するイベントへ参加し、県内の観光施設との連携及び情報の共有化を図った。また、名古屋市交通局と連携し、市営交通機関利用者に対して、当財団の施設入場料の割引を行い、名古屋港への来訪者の増加を図ることにより、この地域の活性化を図った。このほか、ガーデンふ頭と金城ふ頭の間を運行している水上バス利用者に対して当財団の施設入場料の割引を行い、名古屋港内の回遊性を高め、観光機能の向上を図った。

④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）を活用したイベントの開催（資料 7）

ガーデンふ頭地区においてイベントの実施、誘致を通じ、港に賑わいを創出し親しまれる港づくりを推進した。

- ア 11月に開催した「名古屋港開港祭フレンドリーポート 2017」や正月3日間開催した「新春みなとカーニバル 2018」の事務局を務め、賑わいを創出するとともに名古屋港のPRや集客に努め、県外も含めて、多くの来港者で賑わった。
- イ ジェティ広場においては、年間を通じて各種イベントを開催、誘致し、ガーデンふ頭地区の賑わいづくりに努めた。また、繁忙期（GW・お盆等）には、ジェティテナント会の販売促進事業として、同広場を活用した集客イベントを実施することで、来港者へのサービス向上につなげた。

⑤ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）において賑わいの場を提供する事業

ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティの運営を通じガーデンふ頭における賑わいの場を提供した。

- ア ガーデンふ頭臨港緑園は、緑地維持業務、花壇整備等の施行により、緑豊かで快適な環境造りの推進に努めた。また、園内諸施設について、本来の美しい景観を甦らせるよう改修・修繕を積極的に実施した。
- イ ジェティにおいては、飲食、物販のスペースを含めた休憩施設としての機能を生かし、名古屋港水族館を支援するとともに、名古屋港の観光施設の情報を提供・発信することにより、親しまれる港としての名古屋港の発展に寄与した。

2 公益目的事業以外の事業

（1）管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機を運営することにより、公益目的事業の一助とした。

また、平成 26 年 2 月より発足した名古屋港水族館法人サポーター制度の会員数は、平成 29 年度末には 126 社、208 口を数えるほどに増加した。これにより、生物の保護、繁殖研究等の役割を一層向上させることに貢献した。

来館者の利便性を高めるため、訪日外国人もよく利用している空港やコンビニエンスストアなど多くの場所で採用されている公衆無線LANで最大のシェアを持つ「Japan Connected-free Wi-Fi」に加入し、水族館内のほとんどの場所で利用できるようにした。

(2) 船員宿泊施設の運営事業（資料8）

平成25年10月より、船員宿泊施設である名古屋船員会館（ハーバーロジנגなごや）の運営を行い、船員はもとより来港者の宿泊を促し、観光事業の振興の一助とした。

3 その他

名古屋港水族館以外の企業や団体などとの相互誘致、知名度アップなどの目的で、以下のイベントなどを行った。

ア ジェイアール名古屋タカシマヤにて絵本「にじいろのさかな」の原画展が開催されるにあたり、『きらきらうろこ』をあげよう」など集客力の高い商業施設であるジェイアール名古屋タカシマヤとの相互誘客イベントを行い水族館のPRを図った。

イ 名古屋観光コンベンションビューローと近畿日本鉄道株式会社が行う「近鉄名古屋エリアキャンペーン いこーや なごーや」の一環として、関西圏の観光客の誘致を目的として名古屋城、徳川美術館をはじめとする名古屋市内7か所の観光施設で行うスタンプラリーに参加した。水族館のノベルティを進呈するなどして誘客に努めた。

ウ 特別展「くらげの刻（とき）～漂い生きる不思議な生き物～」の開催にあたり、NTTドコモ東海支社の協賛を得て水族館内でクイズラリーを実施した。

エ 映画「忍びの国」の公開記念としてTOHOマーケティング株式会社の協賛を得て「お忍びスポットキャンペーン」と題したスタンプラリーに参加し、地図アプリやポスターで当館のPRを行った。

オ 東海大学海洋学部の海洋調査研修船「望星丸」一般公開に合わせて「海の仕事は魅力がいっぱい～なるには物語・海洋編～」など対談等のイベントに協力した。

資料1 スクール等の参加状況

1 「君もドリトル先生になれるか！」対象：小学生と保護者

回	日	タイトル	参加人数
1	4/2	イルカ	36名
2	4/16	シャチ	33名
3	5/14	黒潮大水槽	33名
4	6/4	ベルーガ	37名
5	6/18	ペンギン	32名
6	9/24	ウミガメ	33名
7	10/8	シャチ	69名
8	10/22	黒潮大水槽	33名
9	11/5	ベルーガ	36名
10	11/19	ペンギン	28名
11	2/4	イルカ	22名
12	2/18	ウミガメ	33名
参加総数合計			425名

2 「もっと知りたい！ダーウィン教室」

回	日	タイトル	対象	参加人数
1	7/26	大接近！ベルーガ飼育の舞台裏	小4～6	16名
2	8/3	のぞいてみよう 水族館の裏のウラ	小1～3	16名
3	8/8	このエサはだれのもの？	小1～3	15名
4	8/25	ウヒョー つめたい！ 潜入体験！ 南極の海	小4～6	15名
5	9/9	感じて納得！ 目指せシャチ博士	小1～3	16名
6	12/25	感じて納得！ 目指せシャチ博士	小4～6	13名
7	12/28	イルカたちの大みそか ～年末のトレーナー体験～	小1～3	16名
8	1/6	見て！触って！深海魚を考える	小4～6	16名
9	1/8	ペンギンウォッチング！上から横から	小1～3	16名
10	3/27	サメ、知ってる？エイ、知ってる？	小4～6	16名
11	3/28	海のスター！ヒトデの不思議な世界	小1～3	15名
12	3/29	夢に向かってスタートダッシュ！ イルカトレーナーになろう！	小1～3	16名
参加総数合計				186名

3 その他スクールなどへの参加状況

事業名	開催件数	参加者数
水族館スクール	24 回	611 名
職場訪問、館内レクチャー	94 件	3,134 名
	うち 水族館 89 件 海洋博物館 5 件	うち 水族館 3,091 名 海洋博物館 43 名
職場体験	13 校	41 名
	うち 水族館 10 校 海洋博物館 3 校	うち 水族館 31 名 海洋博物館 10 名

4 教員研修受け入れ人数

(人)

	名古屋市	愛知県	合計
小学校	3	2	5
中学校	1	0	1
高校	0	12	12
その他	0	5	5
合計	4	19	23

※1 その他には、特別支援学校、聾学校が含まれる。

※2 愛知県小学校2名のうち1名を長期(2ヶ月)に受け入れた。

資料2 機関紙等の発行

1 機関紙「さかなかな」

Vol.94 2017 SUMMER	特集：漂い生きるクラゲの不思議に迫る！
Vol.95 2017 AUTUMN	特集：これからの名古屋港水族館～開館 25 周年に寄せて～、飼育係目線！劇的（かもしれない）ビフォーアフター！
Vol.96 2017 WINTER	特集：海水を求めて～飼育水で振り返る名古屋港水族館の歴史～
Vol.97 2017 SPRING	特集：意外に知らない日本のカメ事情

2 生物情報誌「新着！海の生き物レター」

5/25 (2017)	捕れました！深海生物
8/3	ケープペンギンがやってきました
8/18	メインプールで頑張ります！シャチ公開トレーニング
10/13	放流しました！アカウミガメの赤ちゃん
12/21	12羽誕生！ペンギンのヒナたち
2/3 (2018)	名古屋港水族館初展示！シマフグ
2/25	氷大好き！ゴマフアザラシ
3/29	イシガキフグ「ガキちゃん」「ジャンボ」の成長

資料3 ポートビル施設特記事項

事業名	開催会場	実施時期	参加人数
名古屋海洋博物館クイズラリー	3階博物館内	5/3～5/5	500人
名古屋港開港110周年記念企画展 「昭和時代の名古屋港」	3階博物館内	7/15～9/3	35,655人
第33回ボトルシップの作り方入門 教室	4階講堂	8/6	78人
第50回名古屋港港湾ゼミナール	4階講堂	9/21	67人
海の映画会「伊勢湾台風物語」	4階講堂	9/17	21人
第14回南極教室	2階C会議室	10/1	57人
第33回ボトルシップ展	3階博物館内	11/1～1/8	27,381人
ボトルシップ製作講座	3階博物館内	11・12月の土日祝	124人
第32回名古屋港を描いた作品コン クール	4階講堂	開催日11/3 表彰式1/28	452点
帆船模型展	2階B会議室	11/5～19	2,901人
第11回南極観測船ふじでの星空 観察会	南極観測船ふじ	11/25、26	41人
オホーツクの流水展 『オホーツクの流水に触れてみま せんか』	南極観測船ふじ	3/3～5	1,411人
工作教室(ペーパークラフト教室)	3階博物館内	4～10月1～3月 の第4土曜日	149人
工作教室(立体カード工作教室)	3階博物館内	4～10月1～3月 の第2土曜日	120人
夏休み工作教室(3D立体色紙を作 ろう!)	4階講堂	8/13	48人
名古屋港開港110周年記念 「親子名古屋港社会見学会」	飛島ふ頭南側コンテナ ターミナル	8/23、31	62人

資料4 ボランティア活動特記事項

1 水族館

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
水族館内解説活動 (タッチタンク・マイクロアクアリウム・ 南極コーナー・ウミガメ・ペンギン・サ ンゴ・進化の海)	6,888 時間 30 分	2,237 人
水族館スクール支援活動	410 時間 45 分	134 人
その他 (ワークショップ開催等支援活動)	1,856 時間	470 人

2 南極観測船ふじ

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
メンテナンスボランティア	66 時間	24 人
解説ボランティア	541 時間 30 分	234 人

3 名古屋海洋博物館

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
解説ボランティア	165 時間	81 人

資料5 飼育展示等関係特記事項

項 目	内 容
展示	<p>1 特別展の実施</p> <p>(1) 特別展「Zoo Aquarium(ズーアクアリウム)～水族館なのに動物園！？～」を開催(12/17～4/9) ゾウやライオンなどの名前がつく水生生物を動物園的な視点から展示</p> <p>(2) 開館25周年記念特別展「くらげの刻(とき)～漂い生きる不思議な生き物～」を開催(4/29～9/18 好評につき10/1まで延長) 「癒し」効果が高いとも言われ人気のあるクラゲ類を展示</p> <p>(3) 特別展「カメ、知ってる？～意外に知らない日本のカメ事情～」を開催(10/28～) 日本に生息する淡水、陸生のカメの仲間について在来種を脅かす帰化種に対する啓蒙を含めて展示</p> <p>2 期間展示の実施</p> <p>(1) 季節展示 クリオネ、子どもの日、七夕、川の生き物、敬老の日、ハロウィン、クリスマス、正月・干支、バレンタイン・ホワイトデー、雛祭り、花見</p> <p>(2) 名古屋港水族館開館25周年記念「水口博也 シャチ写真 World Orca」 北館2階展示面各プール横壁面・南館連絡通路壁面に展示(7/21-10/9)</p> <p>3 常設展示の変更 北館2階「進化の海」展示コーナーをパキケタスレプリカ展示、解説パネルの改修、頭骨標本配置変更などリニューアル(3/21～)</p> <p>4 解説・バックヤードツアー等</p> <p>(1) 南館フィーディングタイム ・黒潮大水槽、サンゴ礁大水槽、ウミガメ回遊水槽、ペンギン水槽</p> <p>(2) 黒潮大水槽 ・マイワシのトルネード(毎日)</p> <p>(3) サンゴ礁大水槽 ・ダイバーコミュニケーション(毎日)</p> <p>(4) ペンギン水槽 ・ペンギンコミュニケーション(土曜日、夏休み期間平日) ・ペンギンミニ講座(5～9月の土日祝)</p> <p>(5) 北館発見コーナー ・イルカの飼育ミニ講座(毎日)</p>

- (6) イルカ
- ・イルカパフォーマンス（毎日）
- (7) ベルーガ
- ・ベルーガの公開トレーニング（毎日）
 - ・「ベルーガの不思議な魚の食べ方」実施（毎週土・日・祝・繁忙期）
- (8) シャチ
- ・シャチ 1 プール 2 階展示面にて公開トレーニング解説実施（毎日）
*7/21～はメインプールで実施
 - ・シャチ 1 プール 2 階展示面にて飼育員解説実施（4/1～7/20、1/19～3/20）（平日）
 - ・北館 2 階「進化の海」展示コーナーにてミニガイドツアー実施（3/22～2018/4/6）（平日）（参加人数 135 名）
- (9) アザラシ
- ・これであなともゴマちゃんマニア（7 月中旬までの平日）
 - ・フィーディングタイム（7/21～毎日）
- (10) ケープペンギン
- ・フィーディングタイム（7/21～毎日）
 - ・「ペンギンよちよちウォーク」（3/21～毎日）
- (11) 夏休み期間
- ・お泊り水族館（計 25 組 66 名参加）（7/29～30、8/5～6）
- (12) その期間
- ・ナイトウォッチングを実施（10/7～29 の土日祝 計 6 回）
- (13) 黒潮大水槽バックヤードツアー
- ・団体向け黒潮大水槽バックヤードツアー（85 件、4,156 人）
- | | | | | | |
|-----|------|---------|------|------|-------|
| 4 月 | 3 件 | 348 人 | 10 月 | 9 件 | 338 人 |
| 5 月 | 5 件 | 274 人 | 11 月 | 11 件 | 323 人 |
| 6 月 | 13 件 | 1,006 人 | 12 月 | 5 件 | 145 人 |
| 7 月 | 12 件 | 644 人 | 1 月 | 3 件 | 89 人 |
| 8 月 | 8 件 | 313 人 | 2 月 | 7 件 | 263 人 |
| 9 月 | 2 件 | 66 人 | 3 月 | 7 件 | 282 人 |
- (14) ボランティアによるイベント
- ・ボランティアによる人形劇
（5/21：70 名）
 - ・ボランティアによるお話し会
（8/19：70 名、8/20：70 名、11/25：50 名、1/27：60 名）
 - ・ボランティアフェスタ
ウミガメ（8/6：350 名）
鯨類（11/23：490 名）
にぼしの解剖（2/11：280 名）
 - ・ボランティアによる工作会
ちくちくペンギン教室（フェルト工作）（7/9：35 名、12/3：32 名）

	<p>貝のクリスマスオーナメント (12/9 : 160 名)</p> <p>オリジナルポストカード作成 (12/10 : 100 名)</p> <p>プラ板工作 (12/10 : 180 名)</p> <p>エコ「亀の子」たわし作成 (3/21 : 90 個)</p>
<p>調査研究 シンポジウム 関係等</p>	<p>1 共同研究</p> <p>(1) 岐阜大学応用生物科学部と「ブタバナガメの繁殖生理と産卵生理に関する研究」「飼育下ベルーガにおける繁殖期および交尾前後の行動変化と性ホルモン動態の関係」</p> <p>(2) 近畿大学農学部と「シャチの社会行動とホルモンに関する研究」</p> <p>(3) 常磐大学コミュニティ振興学部と「飼育下シャチの鳴音と社会行動の関係」</p> <p>(4) 日本大学生物資源科学部と「名古屋港水族館 飼育環境等の真菌調査・飼育動物の真菌調査」</p> <p>(5) 京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター、東海大学海洋学部海洋学部環境社会学科と「名古屋港最奥部におけるスナメリの分布密度の季節変化の調査」</p> <p>(6) 三重大学大学院生物資源学研究科附属鯨類研究センター、岐阜大学応用生物科学部(動物繁殖学研究室)、近畿大学農学部(海棲哺乳類学研究室)と「シャチの繁殖に関する研究」</p> <p>2 シンポジウム・研究会などの参加</p> <p>(1) 2017 年 国際水生動物医学連盟会議 (5/20~24)</p> <p>(2) 日本動物園水族館協会 第 114 回中部ブロック飼育技術者研修会 (6/29、30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「25 周年を迎える南極生物展示の紹介」を口頭発表 <p>(3) 日本動物園水族館協会 スナメリ人工保育研修会 (9/5)</p> <p>(4) 日本動物園水族館協会 第 62 回水族館技術者研究会 (10/29~31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ガンテンイシヨウジの繁殖と仔魚の育成」を口頭発表 <p>(5) 第 20 回種保存会議 (11/16~18) 参加</p> <p>(6) 日本動物園水族館協会 第 27 回設備会議 (11/30~12/1)</p> <p>(7) 第 8 回極域科学シンポジウム (12/4~6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「名古屋港水族館における南極海洋生物の 25 年間の飼育、展示 Rearing and exhibit of Antarctic marine organisms at Port of Nagoya Public Aquarium for 25 years」をポスター発表 <p>(8) 第 2 回 JACRE トレーニングセミナー (12/5~6) 参加</p> <p>(9) 日本動物園水族館協会 第 43 回海獣技術者研究会 (12/6~8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バンドウイルカの卵巣-子宮疾患による急性腹水症の内科的治療例」「新生児バンドウイルカの積極的治療例」「バンドウイルカの出産前の胴周囲長と乳裂間隔の変化」を口頭発表 <p>(10) 平成 29 年度東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会 (水族館シンポジウム) (12/11~12)</p>

- ・水族館におけるアカウミガメの繁殖展示と研究」(口頭発表)
- (11) 日本動物園水族館協会 第65回動物園技術者研究会 (12/12～14)
 - ・「アデリーペンギンの人工孵化および人への刷り込み防止を目的とした人工育雛について」を口頭発表
- (12) 日本鯨類研究協議会 (JACRE) 第1回海外視察研修会
 - ・米国フロリダ シーワールド他 (1/13～20)
- (13) 第2回つくみイルカ研究シンポジウム ((株) マリーンパレスつくみイルカ島主催) (1/16)
- (14) 第38回国際ウミガメシンポジウム (2/20～22)
 - ・「名古屋港水族館における屋内施設でのアカウミガメの繁殖」、「ウミガメ保護の新たな取り組み～飼育下繁殖卵の自然海岸への移植～」をポスター発表
- (15) 日本動物園水族館協会 平成29年度水族館・教育事業－参加型研修会「水族館の枠を超えた環境教育プログラムの開発」(2/21～22) 参加
- (16) 日本鯨類研究協議会 (JACRE) 第1回水族館研究会 (2/26～27)
 - ・「イシサング類の飼育と展示について」「バンドウイルカの「取り上げ」事例紹介」を口頭発表

3 シンポジウム・研究会などの開催

- (1) 2017年ハンファホテル&リゾート・名古屋みなと振興財団 水族館情報交流会 (1/24・25) (参加者18名)
- (2) 日本カメ自然誌研究会「第19回日本カメ会議」(3/10・11) (参加者60名)

4 展示、研究協力

- (1) 名古屋コミュニケーションアートより延べ33名の研修受入れ(周年)
- (2) 岐阜大学応用生物科学部実習生受入れ(3名)
 - (8/7～20、9/1～14、9/24～10/7)
- (3) 三重大学生物資源学部実習生受入れ(3名)
 - (8/18～31、8/19～9/1、9/13～26)
- (4) 大阪ECO動物海洋専門学校より研修生受入れ(4名)
 - (5/3～17、8/25～9/10、9/21～10/4、1/30～2/13)
- (5) 愛知県立三谷水産高校実習生受入れ(12名)
 - (7/24～8/30、1/4～6)
- (6) 沖縄高専生物資源工学科実習生受入れ(1名)(8/28～9/10)
- (7) 大阪動植物海洋専門学校より研修生受入れ(5名)
 - (11/5～29、12/5～2/12)
- (8) 北海道大学獣医学部実習生受入れ(1名)(3/15～30)
- (9) 徳川美術館からの「築地名苑真景・草木虫魚写生図巻」の生物名同定調査へ協力
- (10) 信州大学繊維学部機械ロボット学科小林俊一教授へ研究協力

	<p>名古屋港水族館でイルカの立ち泳ぎの高速度カメラでのビデオ撮影</p> <p>(11) 東海大学海洋学部「望星丸」一般公開に合わせてのイベント協力 特別対談「水族館・館長への道」 フリートーク「海の仕事は魅力いっぱい～なるには物語・海洋編～水族館職員への道」</p> <p>5 職員派遣</p> <p>(1) 日本動物園水族館協会から委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェンツーペンギン等、血統登録担当者（継続） ・ 生物多様性委員会国際保全事業部員 ～H30年5月 ・ 教育普及員会学術研究部員 ～H30年5月 ・ 総務委員会情報システム運営部員 ～H30年5月 ・ 平成29年度生物多様性委員会（6/19～20） ・ 平成29年度学術研究部会（10/5、2/3） ・ 平成29年度情報システム運営部会（9/20） ・ 第1回 イルカ会議(仮称)（2/15） <p>(2) 日本鯨類研究協議会から委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鯨類長期飼育・繁殖推進委員 ・ 幹事 ・ 鯨類長期飼育・繁殖推進委員会（6/29、11/17） ・ 幹事会（12/6、1/6、2/15） <p>(3) 館外レクチャー（一般等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 港図書館会館50周年記念講演会に1名講師派遣 「飼育員が語るシャチの意外な素顔」48名参加（5/27） ・ 名古屋市高年大学鯉城学園に1名講師派遣「ウミガメについて」 35名参加（7/12） ・ 熱田神宮緑陰教室に1名講師派遣 小3～4 約300名が参加 （7/31） ・ 知多地域教育研究会 理科学研究部発表会に1名講師派遣 250名参加（10/13） ・ 藤前干潟ふれあい事業に1名講師派遣 25名参加（11/19） ・ 港文化小劇場にて講演会「ウミガメざんまい」に1名講師派遣 200名参加（1/21） <p>(4) 他園館協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伊勢シーパラダイスへの獣医師派遣（バンドウイルカの疾病に対する技術指導）（11/15～16）
<p>講演 イベント等</p>	<p>1 北館しおかぜ広場において「サメ・エイにタッチ」を4/1～9に毎日実施</p> <p>2 飼育（4/19）の日イベント（4/15～16） 「飼育の日キーパートーク」「子ガメとのふれあい」「水族館裏側探検」</p> <p>3 「子ガメにタッチ」を南館3階で7/21～8/31の平日に実施</p>

	<p>4 名古屋駅前ミッドランドスクエアにて「AQUA LIVE! in ミッドランドスクエア 2017」を開催 (7/29～8/13)</p> <p>5 エコアリエンテリング in 赤羽根(あかばね塾)にてアカウミガメ 2016 年産 1 個体、2017 年産 10 個体を赤羽海岸より放流 (8/6)</p> <p>6 田原市赤羽根小学校と共に 2014 年産アカウミガメ (1)、2017 年産アカウミガメ (88) を赤羽海岸より放流 (9/19)</p> <p>7 学術交流協定共同研究講演会 (1) 「イルカは世界をどう見ているか?～陸海空の心の世界～」講師: 京都大学霊長類研究所 友永雅己教授 (北館レクチャールーム) (参加者 64 名) (9/23) (2) 学術交流協定共同研究講演会「ベルーガやイルカの声から私たちを知る～イルカ・クジラのコミュニケーション～」講師: 三重大学大学院生物資源学研究科 附属鯨類研究センター 森坂匡通准教授(北館レクチャールーム) (参加者 67 名) (3/17)</p> <p>8 水口博也写真展 World Orca 付帯イベント 水口博也講演会 「世界のシャチに会いに行く」講師: 写真家 水口博也 (北館レクチャールーム) (参加者 54 名) (9/10)</p> <p>9 「進化の海」コーナー リニューアル記念講演会「イルカは昔、陸を歩いていた～化石が明かす五千万年の進化史～」講師: 福井県立恐竜博物館 主任研究員 一島啓人博士(北館レクチャールーム) (参加者 52 名) (3/21)</p> <p>10 『ケヅメリクガメの展示とアカウミガメの子ガメにタッチ』を 1/1～8 に毎日実施</p> <p>11 受験生応援企画「エンペラーペンギンの幸せの黄色い羽根をプレゼント」を 1/6～8 に実施</p>																								
<p>主な繁殖動物</p>	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>バンドウイルカ</td> <td>1 個体</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>キタジェンツーペンギン</td> <td>5 個体</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アデリーペンギン</td> <td>3 個体</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ヒゲペンギン</td> <td>4 個体</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ブタバナガメ</td> <td>27 個体</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ニシキマゲクビガメ</td> <td>4 個体</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アカウミガメ</td> <td>36 個体</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ナンキョクオキアミ</td> <td>8,442 個体</td> </tr> </table>	1	バンドウイルカ	1 個体	2	キタジェンツーペンギン	5 個体	3	アデリーペンギン	3 個体	4	ヒゲペンギン	4 個体	5	ブタバナガメ	27 個体	6	ニシキマゲクビガメ	4 個体	7	アカウミガメ	36 個体	9	ナンキョクオキアミ	8,442 個体
1	バンドウイルカ	1 個体																							
2	キタジェンツーペンギン	5 個体																							
3	アデリーペンギン	3 個体																							
4	ヒゲペンギン	4 個体																							
5	ブタバナガメ	27 個体																							
6	ニシキマゲクビガメ	4 個体																							
7	アカウミガメ	36 個体																							
9	ナンキョクオキアミ	8,442 個体																							
<p>飼育動物の譲渡等</p>	<p>1 ブリーディングローン (繁殖を目的とした生物の貸借)</p> <p>(1) アドベンチャーワールドとエンペラーペンギンのブリーディングローンを平成 21 年から継続中</p> <p>(2) 鳥羽水族館とニシキマゲクビガメのブリーディングローンを平成 21 年から継続中</p> <p>(3) 長崎ペンギン水族館にヒゲペンギンのブリーディングローンを平成 26 年から継続中</p> <p>(4) 平成 29 年 6 月 26 日より八景島シーパラダイスとバンドウイルカ(雄 3 頭) のブリーディングローン開始 (3 年契約)</p>																								

(5) 7月19日よりで東京都恩賜上野動物園からブリーディングローンで21羽借受け(3年契約)

2 生物の貸し出し及び譲渡

(1) 葛西臨海水族園にタイマイ1頭貸出し(H26,9/10~)

(2) 大洗水族館へアカウミガメ3頭、アカウミガメ40卵譲渡(7/12、8/10)
日和佐うみがめ博物館カレットにアカウミガメ10個体譲渡(9/9)
新屋島水族館へアカウミガメ10頭譲渡(9/21)

(3) 浜松科学館へ深海生物標本・資料貸出
特別展「深海アドベンチャー」(7/15~8/27)

(4) 宮崎県総合博物館へペンギン骨格標本・資料貸出し
特別展「日本南極観測60周年記念 南極展」(7/15~9/3)

(5) 情報・システム研究機構国立極地研究所にアデリーペンギン冷凍標本譲渡(10/19)

(6) ユニクロ名古屋店へペンギン4種の卵殻標本を貸出し(9/21)

3 生物の交換

鶴岡市立加茂水族館、新江ノ島水族館等とクラゲ類の交換

資料6-1 誘致宣伝事業・観光振興事業特記事項

事業名	開催場所	開催時期
名古屋まつり	名古屋市久屋大通	10/21※
トヨタグループ Thanks Sale	ポートメッセなごや 第3展示館	12/16~17
旅まつり名古屋2018	名古屋市久屋大通	3/17~18

※ 当初の予定は10/21~22だったが、台風接近のため2日目は中止となった。

資料6-2 団体観光客及び学習旅行の誘致等のため訪問した施設

地方	出張先	小学校	中学校	高校	幼稚園 保育園	旅行社	ランド オペレーター	計
東海	岐阜				26			26
	静岡			21	42	38		101
	東海計			21	68	38		127
関西	大阪	70				28		98
	京都	75			2	25		102
	関西計	145			2	53		200
甲信越	長野	91	4			5		100
関東	東京・埼玉					13	1	14
		236	4	21	70	109	1	441

資料7 施設の管理運営特記事項（各施設の利用状況）

1 各施設の利用実績

施設名	入館者数又は利用数
名古屋港水族館	2, 221, 822 人
ポートビル 講堂・会議室	883 回
同 展望室	167, 121 人
同 名古屋海洋博物館	155, 130 人
同 2階回廊ギャラリー	299 日
南極観測船ふじ	187, 530 人
ポートハウス休憩所（しおかぜコンサート等催し物 43 件）	5, 562 人
ガーデンふ頭一般駐車場	301, 486 台
つどいの広場イベント	14 回
ジェティ来館者	1, 311, 038 人
ジェティ広場イベント	18 回

2 つどいの広場利用実績

事業名	主催者	日程	来場者数
築港祭 2017	築港祭実行委員会	4/30	約 10, 000 人
Vivid Carnival	ARK 遠藤	5/5	約 1, 000 人
JC 青年の船 出航式	44 回 JC 青年の船「とうかい号」歓送迎委員会	5/28	約 1, 200 人
JC 青年の船 帰港式	44 回 JC 青年の船「とうかい号」歓送迎委員会	6/3	約 1, 200 人
電動 RC カー競技会	(株)タミヤ	7/1、2	約 570 人
第 70 回名古屋みなと祭	海の日名古屋みなと祭協賛会	7/17	約 360, 000 人
名港水上芸術花火 2017	名港水上芸術花火開催委員会	10/14	約 15, 000 人
平成 29 年度港区区民まつり	港区区民まつり実行委員会	11/3	約 63, 000 人
名古屋港開港祭フレンドリーポート 2017	フレンドリーポート実行委員会	11/12	約 40, 000 人
秋の大撮影会	インサン（株）（トップカメラ）	11/19	約 400 人
LAGP2017 Nagoya	(株) LAGP	12/16、17	約 1, 200 人
クリスマスイベント	名古屋港冬のにぎわい創出実行委員会	12/24	約 7, 000 人
ISOGAI 花火劇場 in 名古屋港	名古屋港冬花火実行委員会	12/24	約 44, 000 人
出初式	名古屋市消防局	1/14	約 15, 000 人

3 ジェティ広場利用実績

事業名	主催者	日程	来場者数
パフォーマーフェスティバル	ジェティテナント会	4/29～5/7	約 6,500 人
木曾川うかい観光キャンペーン	犬山市 犬山市観光協会 各務原市	4/30	約 800 人
和太鼓演奏	愛知県立松蔭高等学校和太鼓部	5/3、4	約 800 人
レクサス LC キャラバン	㈱ピスタチオ	6/4	約 1,000 人
納涼夏祭り 2017 in 名古屋港	ネッツトヨタ 名古屋みなと振興財団	7/22、23	約 17,000 人
サマー献血キャンペーン 2017	愛知県赤十字センター 愛知県学生献血連盟	8/5	約 4,000 人
パフォーマーフェスティバル	ジェティテナント会	8/11～20	約 11,500 人
交通安全・生活安全啓発活動	名古屋市港区役所	8/23	約 200 人
秋のミニコンサート	東海学生吹奏楽連盟	9/24	約 1,000 人
よせ植え作品発表会	ゆめランド稲荷公園愛護会	11/3～12	約 2,000 人
野良猫問題啓発活動	愛知地域ねこ応援団	11/18	約 100 人
Flash Mob★Nagoya 2017	Flash Mob★Nagoya 実行委員会	12/23	約 300 人
新春みなとカーニバル 2018	ガーデンふ頭新春イベント実行委員会	1/1～3	約 15,500 人
110 番の日キャンペーン	愛知県港警察署	1/6	約 300 人
消防出初式関連イベント 消防ふれあい広場	名古屋市消防局	1/13、14	約 9,000 人
名古屋税関広報キャンペーン	名古屋税関	1/14	約 200 人
野良猫問題啓発活動	愛知地域ねこ応援団	2/10	約 100 人
パフォーマーフェスティバル	ジェティテナント会	3/24～4/8	約 9,000 人

大道芸パフォーマンス	(一社) 中部大道芸まちづくり協会	平成 29 年度中 99 日間利用
ナゴヤポップアップアーティスト	ナゴヤ・パフォーマー事業実行委員会	平成 29 年度中 38 日間利用
エアバルーン遊具イベント	キッズ・ライフ・エンターテイメント㈱	平成 29 年度中 15 日間利用

資料8 名古屋船員会館宿泊実績

月	宿泊人数	前年度比
4月	2,389人	107.5%
5月	2,150人	100.0%
6月	1,664人	85.1%
7月	2,334人	103.0%
8月	3,329人	109.8%
9月	2,025人	94.3%
10月	2,658人	121.5%
11月	2,162人	100.7%
12月	1,441人	68.2%
1月	1,298人	74.7%
2月	1,620人	81.4%
3月	2,333人	98.4%
合計	25,403人	96.5%